

英語 関西学院大学 全学部日程 (2 / 1 実施)

<全体分析>

試験時間

90分

解答形式

全問マーク式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

読解総合問題3題、文法・語法問題、整序英作文問題、会話問題と総合的な英語力を問う出題となっている。読解総合問題では、空所補充問題、パラフレーズ問題、内容一致問題、本文に関する英問英答選択問題が出題されている。概ね昨年の問題形式が踏襲されていた。

新課程を踏まえた出題

読解総合問題の英問英答選択問題で、本文の内容から推測できる事柄を考えさせる問題が出た。〔I〕C)

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔I〕	読解総合 (674 語)	「科学的観察に必要な姿勢について」	A の空所補充問題では標準レベルの語いおよび文法・語法力と文脈を把握する力が問われている。B のパラフレーズ問題も語い力だけで正解に至るのは難しく、文脈を正確に理解した上で選択肢を吟味する必要がある。C の英問英答選択問題では、(ii)(iii)のように本文の内容に基づき、筆者の考えや起こり得る出来事を推測させるものがあり、文脈把握力に加え論理的思考力が求められる。	やや難
〔II〕	読解総合 (481 語)	「動物が人間とのコミュニケーションを理解する能力について」	A の空所補充問題およびB のパラフレーズ問題では〔I〕と同様に標準レベルの語い力および文法・語法力と文脈を把握する力が問われている。A では(1)を除き慎重に英文構造を見極めた上で解答を選びたい。C の内容一致問題は、特に紛らわしい選択肢はないが、本文と正確に照らし合わせた上で判断する必要がある。	やや易
〔III〕	読解総合 (383 語)	「歴史上人間社会の転換期となる出来事について」	A のパラフレーズ問題では語い力と文脈把握力に加え、(3)(4)のように文法・語法力が必要なものもある。B のパラフレーズ問題は〔I〕〔II〕と異なり、文単位で下線が引かれ、選択肢も2~3行の英文となっているため、正解を選ぶには文脈把握力に加え、英文を正確に解釈する力が必要。C の英問英答選択問題は、選択肢の英文をしっかり理解すれば比較的容易に正解できるだろう。	標準
〔IV〕	文法・語法	短文空所補充	標準的な文法・語法・熟語・構文の知識が問われている。	標準
〔V〕	英作文	整序英作文	標準的な文法・語法・熟語・構文の知識が問われている。	標準

〔VI〕	その他 (260 語)	会話問題	対話の文脈把握力に加えて、標準的な会話表現の知識と文法・語法力が問われている。	標準
------	----------------	------	---	----

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

読解総合問題では、まず語い力の増強に努めたい。語い力が身についたら、ある程度の速さで正確に読む練習を積もう。そのためには文と文の論理関係に注意して読む習慣を身につけてほしい。またほぼ全ての設問で文脈把握力が求められる。これは「読み手」として「筆者」が伝えたいことを理解する力であり、広義の「コミュニケーション力」とも言えるだろう。その文脈把握に基づき、本文に書かれていない事柄を推測させる問題では、想像力や思考力が求められる。「読んで考える練習」には「共通テスト」の読解問題を利用するのも一案である。文法・語法の知識も不可欠である。どの文法単元も、品詞や成り立ちを意識しつつ正しく理解した上で、覚えるべきものは覚えるという姿勢で取り組むこと。整序英作文の対策としては、文法の学習の際に重要例文を暗唱していくのがよい。会話問題は、読解総合問題と同様、文脈把握力と文法・語法の知識を問う問題が中心とはいえ、最低限の頻出会話表現は覚えておこう。